

## 第 42 期第 11 回理事会議事録

日 時：2023 年 10 月 6 日（金） 13 時 00 分～17 時 00 分

会 場：気象庁本庁（11 階）会議室 4（Web 会議併用）

出席理事：（会場参加）佐藤薫，橋田俊彦，荒川知子，池上雅明，稲津將，榎本剛，齋藤篤思，佐藤正樹，高谷康太郎，橋本明弘，早坂忠裕，渡部雅浩、以上 12 名  
（Web 参加）青柳曉典，竹村俊彦，坪木和久，堀之内武，三好建正、以上 5 名  
出席理事数合計 17 名（理事数現在 20 名）

欠席理事：植田宏昭，竹見哲也，中村尚

出席監事：（Web 参加）吉田聡

欠席監事：鈴木靖

事務局：勝山税，齋藤誠一郎，萬納寺信崇

### 議題

#### 1. 協議事項

##### 1) 会員の新規加入について

新入会員 28，退会 18 を全会一致で承認した。2023 年 10 月 2 日現在，会員数 3,478 名で個人会員は 3,287 名。

##### 2) 第 42 期第 10 回理事会議事録の確認

議事録案について，全会一致で承認した。

##### 3) 大会のあり方検討 WG 趣意書

第 41 期では「ウィズ／ポスト・コロナ時代の大会のあり方検討 WG」を設け，大会の開催形態や主催機関の持ち回り順の組み換えに関する改革を行った。しかしながら，この変更をきっかけとして別の大きな問題が露呈したため，この度「大会のあり方に関する検討 WG」を立ち上げ，以下の内容について検討を行うことが理事長から提案された。これについて全会一致で承認した。

- a. JpGU 連合大会への気象学会大会機能の一部移行も視野に入れた大会開催のあり方。
- b. 開催機関の選定とローテーションのあり方。
- c. 開催方法。
- d. 大会参加費。
- e. 移行のタイムスケジュール。

##### 4) 選挙管理委員長の選任と第 43 期理事候補者の定数について

第 43 期理事選任候補者の選出に先立ち，理事候補者選挙を実施・管理するための役員候補者選挙管理委員会の委員長を中三川浩会員（気象庁大気海洋部）に委嘱することを全会一致で承認した。また，選挙で選ぶ理事候補者の定数を 16 とすることを，賛成多数で承認した。

##### 5) 公益社団法人日本気象学会細則の一部改正について

機関紙「天気」の配布を電磁的方法によるものとするため，公益社団法人日本気象学会細則第 54 条の規程に基づき，公益社団法人日本気象学会細則の一部を改正することを全会一致

で承認した。

## 6) 倫理規程の一部改正について

ハラスメントに関する事項を、日本気象学会倫理規程に追記することについて、人材育成・男女共同参画委員長から提案があった。議論の結果、さらに修正した内容で改正することを全会一致で承認した。

## 2. 報告事項

### 1) WG からの報告

- ①「天気」と関連する会員サービスの検討 WG・・・以下の内容が報告された。
  - ・冊子体廃止について検討中。2024 年以降も冊子が必要な方について確認を行う。
  - ・紙面の改革について検討中。今年中に天気でお知らせする。

### 2) 業務執行理事の報告

庶務担当理事・・・以下の内容が報告された。

- ・掲載許可

①申請者：株式会社日本入試センター

【転載元】：日本気象学会編「気象科学事典」（1998 年 10 月 2 日）

掲載表：466P 藤田スケール

【転載先】：理科 6 年 冬季講習入試実戦演習 01MU

（小学 6 年生対象，B4 版，5000 部発行予定，2023 年 12 月発行予定）

※小学生対象の学習塾「サピックス小学部」で配布・使用する塾内教材

- ・後援名義等使用依頼受付

①名称：第 23 回「こどものためのジオ・カーニバル」

主催：こどものためのジオ・カーニバル企画委員会

共催：大阪市立自然史博物館・日本応用地質学会関西支部

協力：大阪市立科学館

期日：2023 年 11 月 4～5 日

会場：大阪市立自然史博物館（ネイチャーホール）

名義：後援

②名称：第 61 回アイソトープ・放射線研究発表会

主催：公益社団法人日本アイソトープ協会

期日：2024 年 7 月

会場：日本科学未来館（東京都江東区）

名義：協賛

③名称：「第 8 回 WEATHER-EYE オープンフォーラム」

主催：気象影響防御技術コンソーシアム

期日：2023 年 12 月 5 日

場所：オンライン開催

名義：後援

- ・寄付者リスト（2023.8.9～2023.10.5）なし
  - ・藤原賞，堀内賞，山本賞，小倉奨励賞の投票結果
- 会計担当執行理事・・・以下の内容が報告された。
- ・2023年8月分の収支及び現預金検査報告
  - ・流動資金（運転資金）の月毎の推移
  - ・2023年度春季大会決算報告（東京大学理学系研究科・同先端研・極地研・都立大）

### 3) 委員会報告

企画調整・・・以下の内容が報告された。

- ・特定寄附に関する検討状況について，前回報告から引き続き関係者と議論を続けている．制度の周知やクレジットカード払いを可能にするなど検討している．特定寄附は負荷のないものから始める．

理事から以下の意見があった。

- ・保育支援事業をまずは最初の試みとして行ってはどうか．大学として子供の帯同費を認める研究費が出てきた．利用が増える可能性がある．
- ・需要の喚起やスケジュール感も大事．

講演企画・・・以下の内容が報告された。

- ・2023年秋季大会の参加者数は2015年以来，発表者数は2018年以来の水準に戻った．
- ・2024年春季大会の準備状況．
- ・JpGU2024について，学協会プログラム委員を選出．学協会セッション募集を開始．
- ・2024年度以降の秋季大会の予定
 

2024年度	気象研	2024年11月12日（火）～15日（金）	つくば国際会議場
2025年度	九州支部	2025年11月4日（火）～7日（金）	福岡国際会議場
2026年度	関西支部	2026年10月26日（月）	オンラインポスター
		28日（水）～30日（金）	対面 京都テルサ

以下の意見があった。

- ・オンラインポスターは非常に評判が悪いので見直したい．
- ・オンラインに肯定的な意見もある．実行委員会がやる気を持って実施頂ける形が良い．
- ・2026年秋季大会（京都）では対面ポスターを検討している．

天気編集・・・以下の内容が報告された。

- ・Vol. 70 No. 9, 10, 11（2023年9, 10, 11月）の掲載記事と，Vol 70 No. 12（2023年12月）の予定記事．
- ・掲載料免除申請1件

気象集誌編集・・・以下の内容が報告された。

- ・Vol. 101 No.5（2023年10月）の掲載論文と，Vol. 101 No. 6（2023年12月）の掲載予定論文．審査中の論文リスト．
- ・投稿が少ないので，積極的な投稿をお願いする．
- ・JSTAGEは国の非営利団体で日本の雑誌を支える仕組みだが問題が多く，SOLAとともに

にスプリンガーに乗り換える検討を進めている。次回お知らせする。

SOLA 編集・・・以下の内容が報告された。

- ・論文の投稿・公開状況.
- ・2023年7～8月の掲載論文：11編

松野賞・・・以下の内容が報告された。

- ・2023年秋季大会では109件の応募があった。多数の応募に感謝。

部外表彰等・・・以下の内容が報告された。

- ・応募済・応募中の表彰等

学術・・・以下の内容が報告された。

- ・委員会議事録
- ・「日本の気象学の現状と展望」の更新について

気象災害・・・以下の内容が報告された。

- ・風工学シンポジウムの運営について、気象災害委員会の中に担当を設けて対応する。

教育と普及・・・以下の内容が報告された。

- ・夏季大学の実施報告
- ・公開気象講演会「日本海側の大雪とJPCZ」2023年11月19日（日）オンライン
- ・第13回気象サイエンスカフェつくば「映像で見る雷の世界」2023年10月29日（日）みなと科学館
- ・2023年度先生のための気象教育セミナー「雪や氷の造形を楽しもう」2024年1月7日（日）みなと科学館
- ・ジュニアセッションはオンライン実施のため、全体の様子が分かりにくく、人が入らない部屋があったりする問題がある。
- ・女子高生夏の学校について、来年度参加する体制が作れるかどうか検討を続けている。
- ・気候変動予測先端研究プログラム公開シンポジウムについて、高校生に参加を広くよびかけたとの依頼があり、教育と普及委員会が後援する。
- ・地学オリンピック配布冊子へA4版1枚の広告を無料掲載可であり作成中。

人材育成・男女共同参画・・・以下の内容が報告された。

- ・委員会の英語名称の変更「Early Career Support and Gender Equality Committee」
- ・2023年度秋季大会で「女性会員の集い&WLBを考える会」を実施予定。
- ・女子中高生夏の学校参加についての協議
- ・男女共同参画学協会連絡会関連
- ・委員会補助金申請1件

広報・・・以下の内容が報告された。

- ・2023年9月19日にサイトリニューアルWGをオンラインで実施。
- ・2023年9月21日に選挙管理委員会の委員長候補者とオンライン打合せを実施し、電子投票の方法について検討を行った。

4) 理事長報告・・・以下の内容が報告された。

- ・日本学術会議の第 25 期が終了し、10 月から新体制（第 26 期）となった。第 25 期では「未来の学術振興構想」に気象学会から提案した「有人・無人航空機による気候・地球システム科学研究の推進」及び「地球型惑星のデジタルツイン」と、気象学会がサポートした「衛星全球地球観測による気候・地球システム科学研究の推進」、「太陽地球系結合家庭の研究基盤形成」が盛り込まれた。また、学術会議の見解「より強靱な原子力災害対策に向けたアカデミアからの提案 — 放射性物質拡散予測の積極的な利活用を推進すべき時期に来たと考えます」が発出され、気象研究ノート第 248 号「点発生源からのメソスケール拡散シミュレーション — 福島第一原子力発電所事故をふまえて —」の発刊とタイミングよく重なり、朝日新聞でも取り上げられた。
- ・JpGU の代議員選挙中である。代議員は理事の選挙に参加できるため、気象学会の方が多く参加頂けると気象学会関連の理事が多く選ばれる。
- ・JpGU は国際化を目指しており 7 割を英語セッションとする目標である。

#### 5) その他

##### ①気象学会支部運営に関する意見とりまとめ

竹村理事から主に大会について九州支部の意見が提出された。本件については今回立ち上がった、大会のあり方検討 WG で議論する。

##### ②2024 年度の定時社員総会について以下の内容が報告された。

- ・開催日は、春季大会及び JpGU の大会の直後とし、オンラインを利用して実施する。

以上について、議事録を作成し、理事長および監事が記名押印する。

2023 年 12 月 15 日

公益社団法人日本気象学会

理事長 佐藤 薫

監事 吉田 聡